

平成 27 年度介護等体験談  
社会福祉施設 2

5 日間という短い間ではありましたが、様々なことを学びました。実習先の療育園では、言語療法室、理学療法室、作業療法室などで訓練をします。また、他に、保育室で保育もします。言語療法室では、本を読んだり、言語療法士さんの話しかけに対して答えたりしていました。理学療法室では、子どもを仰向けやうつぶせにして筋肉の反応を見たり、可動域を広げたりするようなものをされていました。作業療法室では、箸を持ったり、書いたりするような力をつけるためのトレーニングがされていました。そして、保育室では、子どもとあいさつをしたり、歌ったり、遊んだりしていました。実習のほとんどが保育室での活動でした。子ども達はハイハイが出来る子、首がすわっておらず、寝たきりの子、話せる子話せない子など各々違っていました。ほとんどの子が話せない子なので、コミュニケーションのとり方にとまどうことが多かったです。けれども、笑ったり、眉をひそめたり、泣いたりなど、表情でくみとれるということを知りました。また、“はい”ならば“まばたきをする”など、その子なりのサインもあるのだということも知りました。小学校には、特別支援学級というクラスもありますが、通級にも発達に遅れがある子は数名います。その子も過ごしやすいような、発問の仕方、働きかけなど考えなければなりません。そのヒントとなることがこの実習でたくさん発見することが出来ました。また、その子の発達に応じてそれをしなければならぬということも改めて感じました。